

休校のため実施できなかった中3修了式の式辞を掲載します。

中3修了式式辞

令和2年3月17日

65期中3生の皆さん、中学修了おめでとうございます。

皆さんの人生の節目となる記念の日でありますので、日頃感じることを述べ、皆さんへの激励の言葉にしたいと思います。

皆さんは、中1のCLE2の時間に、1年間を通して、聖堂で聖歌を歌い、神父様と共に祈りを捧げ、聖書を拝読し、われらの信条を暗唱する等、崇高なものを敬う気持ちを大切にし、本校が最も重視する徳性を養ってきました。さらに誕生日をお祝いする等、他人を大切にする心も養ってきた学年であります。

そして、この1年間、学年主任の佐藤晃先生を中心に、学業の面でも生活の面でも、鍛えられた学年であります。

中1寮生と高II寮生を対象に行ってきた校長面談に、3年前から中3寮生を加えたことにより、皆さんと様々な話ができることが思い出に残っています。なぜ、中3寮生を加えたか、それは中3になると集団学習室から個室に移り、学習形態が変化するからです。

多目的ホールでの学習が導入され、わたしの懸念は多少払しょくされました。が、この時期が本校で最も大切な時期であることを皆さんに分かってほし

かつたのです。

わたしは入試説明会や学校説明会において、次のような話をよくします。

愛光学園の教育は、教育哲学の言葉で言うと「世界的教養人」を育成することであり、宗教哲学、つまり、カトリック的な言葉で言うと「愛と光の使徒」を育成することあります。

本校の校名となっている愛光、愛は徳性を光は知性を表します。知性の面では3年間、皆さん一人ひとりが自ら学ぶ姿勢を堅持しつつ、各教科の先生方にしっかりと鍛えてもらったことだと思います。

また、徳性の面では、神父様や学級担任、そして教科担当の先生方の教えを受け、さらには、ご父母をはじめとするご家族のよき導きによって磨かれてきたことと思います。

わたくしも、皆さんの中學1年次に、ほんの数回ではありましたが、英語を担当し、パワーポイントと3歳児用のキーボードを用いて、皆さんの知性の一端を磨かせていただいたことが、つい昨日のように思い出されます。

徳性を磨くという点でも、先ほど述べた、C L E 2、始業式、終業式等で様々な話を伝えてまいりました。

大学入試に限っては、知性が優先されるのでありますが、最終的に人間の価打ちを決めるのは、徳性であることを忘れてはなりません。

さて、今日の修了式という記念の日に、高Ⅲ卒業式で述べた「一流」とい

うことについてわたくしの思うことをお話しします。

高III卒業式と重複部分省略

何をもって一流とするかは、議論の分かれるところであります。世の中には学問の分野、芸術の分野、宗教の分野、スポーツの分野、生活の分野、その他の分野において、様々な一流が存在します。一流と呼ばれる人の共通点はわが身のことはさし置き、わが身を超えたものに対して、燃える心を持ち、真剣に立ち向かうことだとわたくしは考えています。

高校、さらに大学で学んだあと、皆さんは自らの進む道を選択しなければなりません。どの道に進もうとも、それぞれの一流を求めて、「Change & Challenge」(変革と挑戦)を重ね、さらに、自らが一流を作り上げる情熱と気概をもち、この地球上に足跡を残してくださることを願って修了式の言葉とします。

愛光中学校校長 中村道郎